

# 平成19年度ごみ減量月間（街頭キャンペーン）アンケート集計結果

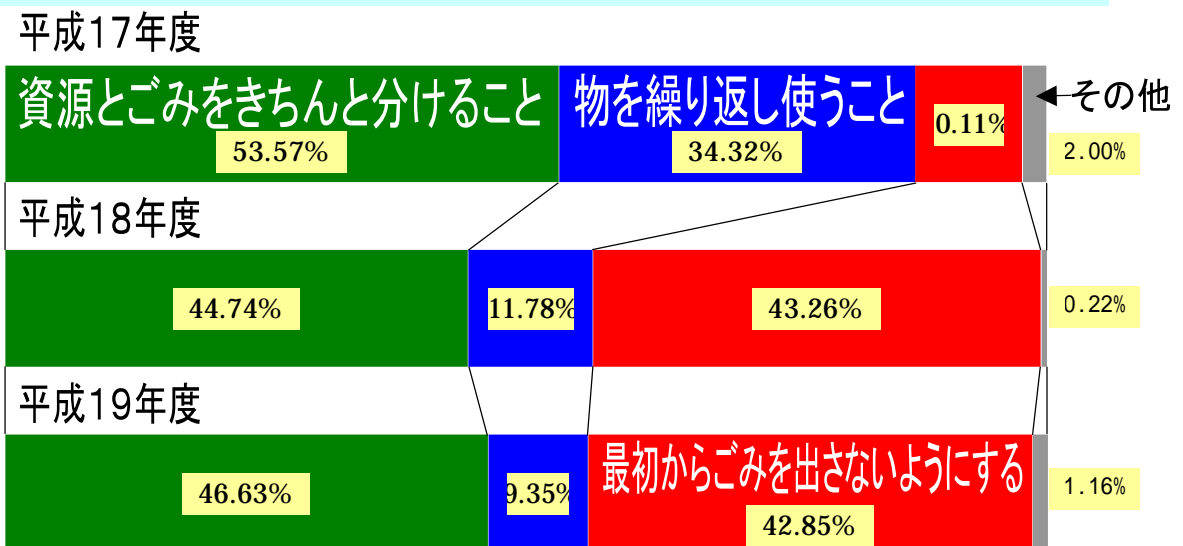
ごみ減量月間における街頭キャンペーンでは、区民の意識を把握し今後の協議会活動の参考とするため、毎年街頭キャンペーン参加者に対してアンケートを行っております。

平成19年度においては、区内9地区12会場にてアンケートを行い、2,854名の協力を得ました。

## 「ごみの発生抑制」意識の浸透状況について

問1 ごみを減らすために一番大切なことはどれだと思いますか。  
いずれか1つに○をつけてください。

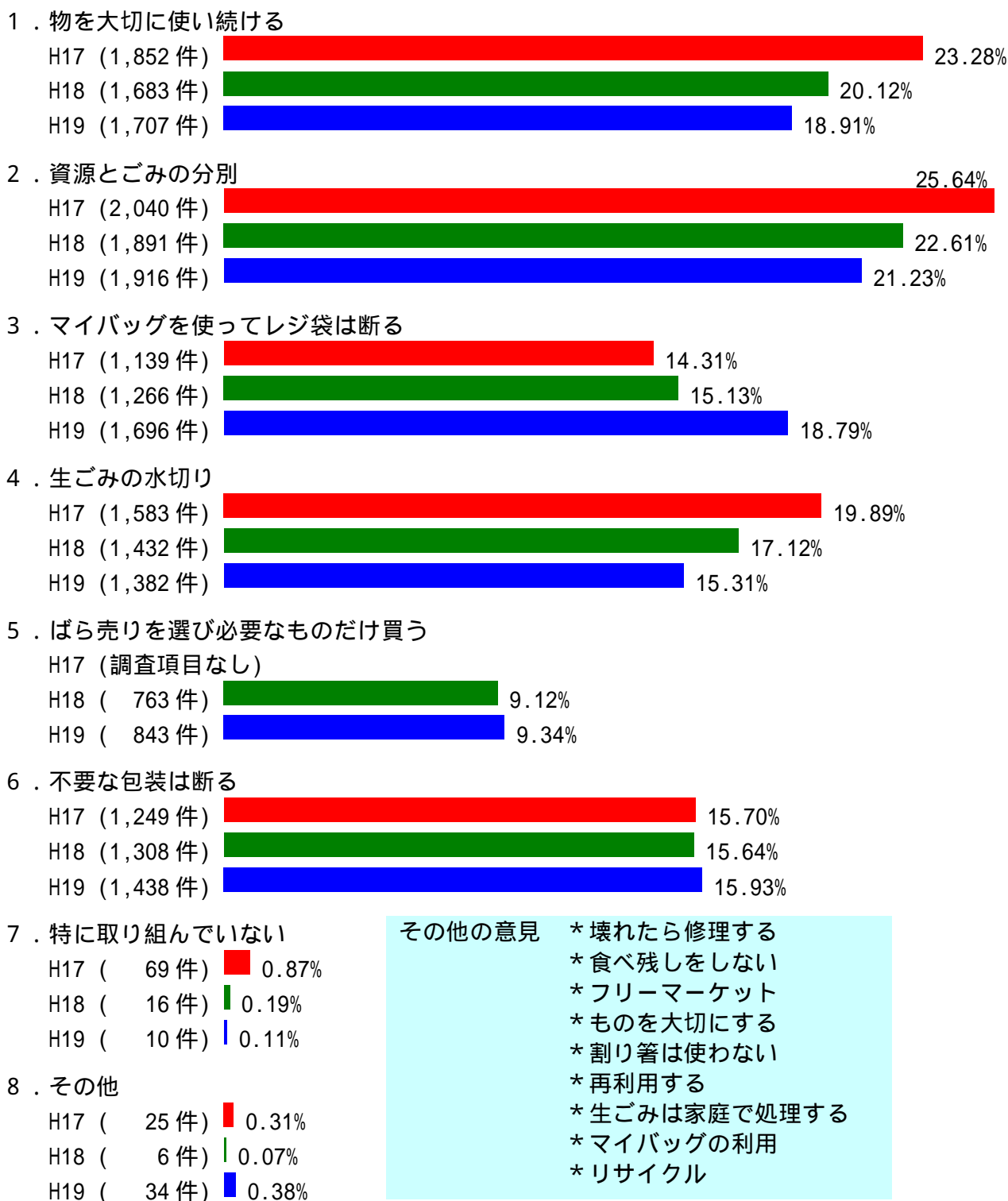
1. 資源とごみをきちんと分けること  
H17 ( 991 件) 53.57%    H18 (1,209 件) 44.74%    H19 (1,122 件) 46.63%
  2. 物を繰り返し使うこと(フリーマーケットの利用など)  
H17 ( 635 件) 34.32%    H18 ( 271 件) 11.78%    H19 ( 225 件) 9.35%
  3. 最初からごみを出さないようにすること(マイバッグを使っての買物など)  
H17 ( 187 件) 10.11%    H18 ( 995 件) 43.26%    H19 (1,031 件) 42.85%
  4. その他  
H17 ( 37 件) 2.00%    H18 ( 5 件) 0.22%    H19 ( 28 件) 1.16%
- その他の意見
- \* 資源とごみの分別
  - \* シンプルな生活
  - \* 一人ひとりが気をつける
  - \* ものを大切にする
- \* 食品トレイを利用しない
  - \* レジ袋を貰わない
  - \* 包装を少なくする
  - \* リサイクル



依然として「資源とごみをきちんと分けること（再生使用）」が一番多い。しかし「最初からごみを出さないようにすること（発生抑制）」についても多くなってきており、発生抑制の考えが浸透してきていることが伺える。

## ごみ減量の取組状況について

問2 あなたは、ごみを減らすために日頃から何か取り組んでいますか。  
あてはまるものすべてに○をつけてください。



マイバッグの利用や不要な包装を断る買物が徐々にではあるが浸透してきており、マイバッグの配布や発生抑制を中心とした啓発活動の浸透が伺える。

## 今後の取り組みについて

問3 ごみの減量やリサイクルを推進していくためには、どのような取り組みに重点を置いていく必要があると思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

### 1. イベントやキャンペーンの実施



### 2. ホームページやFM放送などを使ったPR活動



### 3. 事業者による自主的な活動の促進（簡易包装の促進、マイバッグの利用促進など）



### 4. 地域における自主的な活動の促進（生ごみの水切り、資源の集団回収など）



### 5. その他



- |  |  |
|--|--|
| <p>その他の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* アパート住人への指導</li> <li>* 子供への啓発活動</li> <li>* ごみ袋の名前を書くようにする</li> <li>* 一人ひとりが気をつける</li> <li>* ごみを出さないように心がける</li> <li>* 資源とごみの分別を徹底する</li> <li>* 町会の掲示板の利用</li> <li>* ものを大切に</li> <li>* 量り売りやリターナブル瓶の利用</li> <li>* ごみを出さないような商品を守る</li> <li>* パンフレットやポスターでの啓発活動</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>* 過剰包装を断る</li> <li>* ごみ減量の条例や規則を作る</li> <li>* 生ごみの堆肥化を進める</li> <li>* マイバッグの利用促進</li> <li>* 再生品の利用促進</li> <li>* 集積所の清掃</li> <li>* トレイを使わないようにする</li> <li>* ごみやレジ袋の有料化</li> <li>* 町会単位での活動。</li> <li>* リサイクルを進める</li> </ul> |
|--|--|

「事業者による自主的な活動の促進」や「地域における自主的な活動の促進」といった各自の自主的な活動の推進を望む声が引き続き高い割合となっているものの、「イベントやキャンペーンの実施」への期待も伸びている。

## アンケート集計結果のまとめ

かつしかごみ減量・リサイクル推進協議会では、ごみの発生抑制を中心としたごみ減量の自主的な活動の推進やキャンペーンの実施、チラシの配布によるPR活動などを行ってきた。

アンケートの結果から、「資源をきちんと分別する」などリサイクルに対する意識は高いものの、「最初からごみを出さないようにすること」と発生抑制が一番大切であるという回答の割合も増えており、啓発活動の成果が少しずつではあるがみられる。

また、自ら行っている取り組みについては、「マイバッグを使ってレジ袋は断る」や「ばら売りを選び必要なものだけ買う」「不要な包装は断る」などの発生抑制を中心とした取り組みが徐々に伸びてきているものの、その他の項目は減少している。

ごみの減量には「発生抑制」「再利用」「再生利用」の全ての項目での実施が必要である。

今後とも、あらゆる機会を通じて「発生抑制」に重点をおきつつも、「再利用」「再生利用」も含めたごみ減量の実践への意識啓発を図って行く。

さらに、今後の取り組みに関しては、「事業者による自主的な活動の促進」や「地域における自主的な活動の促進」を望む声も高いことから、引き続き事業者への意識啓発を進め、簡易包装やリサイクル可能な製品の製造・販売など自主的な取り組みを推進して行くと共に、区民が身近にごみの減量に取り組むことができるマイバッグの利用促進や簡易包装、水切りの徹底による生ごみの減量など地域に根ざした活動や、地域における集団回収活動についても引き続き促進していく。

そして、こうした区民・事業者の活動に対して、区は支援を行うとともに、あらゆる媒体を活用した呼びかけを引き続き充実させていくことで、区民・事業者の活動を支援し拡大を図って行く。